

一級河川吉井川水系

永江川

河川整備計画

令和7年11月

岡山市

## 目 次

1. 流域の概要と河川の現状と課題 .....	1
1.1 永江川流域の概要 .....	1
1.2 河川の現状と課題 .....	3
1.2.1 治水の現状と課題 .....	3
1.2.2 利水の現状と課題 .....	4
1.2.3 河川環境の現状と課題 .....	5
2. 河川整備計画の目標に関する事項 .....	6
2.1 整備計画の対象区間及び期間 .....	6
2.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 .....	6
2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 .....	6
2.4 河川環境の整備と保全に関する事項 .....	6
3. 河川の整備の実施に関する事項 .....	7
3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要 .....	7
3.1.1 河川工事の施行の場所 .....	7
3.1.2 河川工事の目的、種類及び河川管理施設の機能の概要 .....	8
3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所 .....	9
3.2.1 河川の維持の目的 .....	9
3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所 .....	9
4. 河川情報の提供、地域や関係機関との連携に関する事項 .....	10

### 1. 流域の概要と河川の現状と課題

#### 1.1 永江川流域の概要

永江川は岡山市東区の南部に位置し、永江橋より下流の国直轄区間（1.0km）を経て本川である吉井川と合流する一級河川です。流域面積 2.66km<sup>2</sup>、流路延長 1.7km であり、掘込河道の形態を呈しています。

地形については、大部分が三角州・海岸平野で占めており、一部が谷底平野・氾濫原で構成されています。

地質は新生代堆積岩で構成されており、礫・砂および粘土質です。

気候は温暖な瀬戸内海式気候区に属しており、隣接する岡山地方気象台における過去30年間の年平均気温は15.8℃、年降水量は1,143mm程度となっています。また、年間の日降水量1mm以上の日数は88日程度であり、我が国でも比較的降雨の少ない地域の一つと言えます。

植生については、流域全体的に水田雑草群落が広がっています。また、本川である吉井川との合流付近では部分的にアカマツやクロマツ、ヨシ群落が見られます。

永江川流域の属する豊・山南学区の人口は、約1万2千人（令和6年8月末）となつております、近年では減少傾向となっております。

永江川流域内の主要な交通網としては、岡山市東区と備前市を結ぶ岡山ブルーラインが東西を横切っています。また、岡山市と瀬戸内市を結ぶ岡山牛窓線<sup>うしまど</sup>が南北に走っています。

岡山牛窓線交差地点から上流と下流で土地利用の形態が大きく変わり、上流は新産業ゾーン、下流は水田が広がっています。永江川流域全体において建物用地は約40%、農耕地が約50%となっております。

産業については、豊・山南学区の産業別の就労人口では第1次産業が約9%、第2次産業が約27%、第3次産業が約64%となっており、サービス業である第3次産業人口比率の高い都市型の構成となっています。

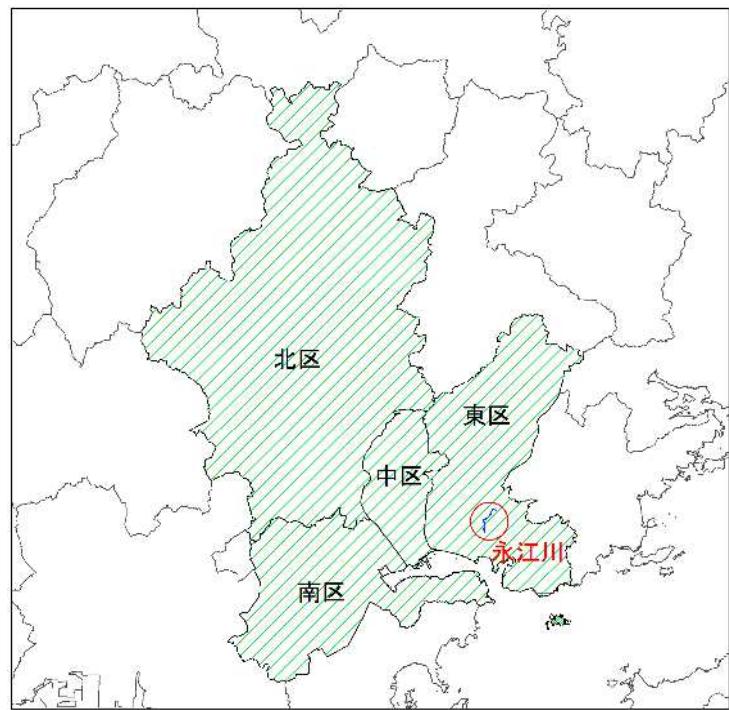


図-1 位置図

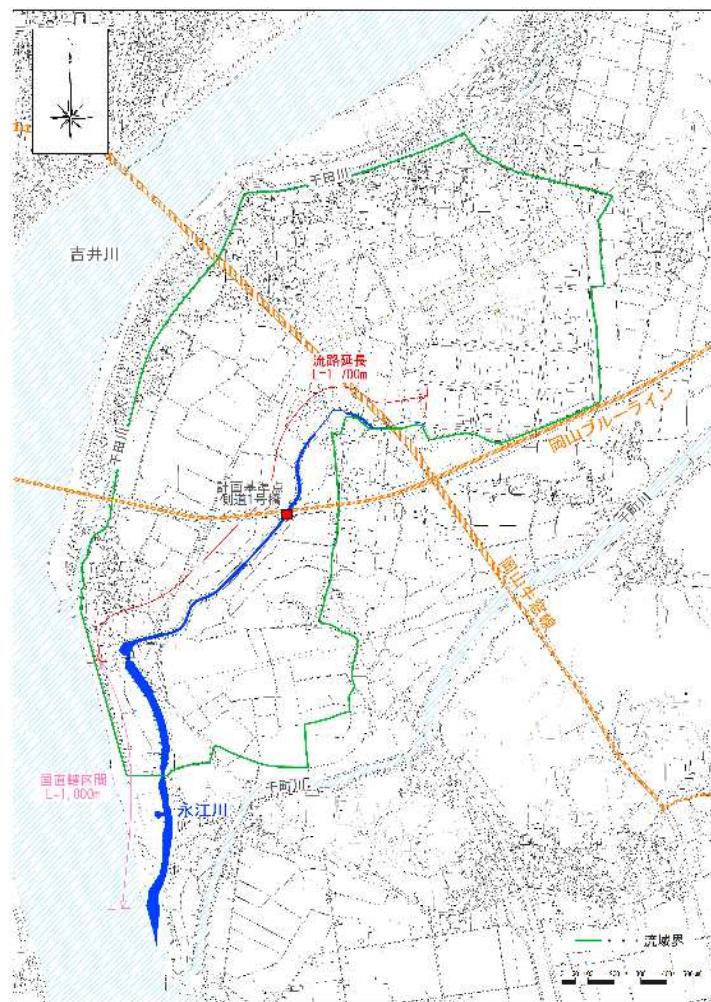


図-2 永江川流域図

## 1.2 河川の現状と課題

### 1.2.1 治水の現状と課題

永江川は、岡山市東区西大寺の低平地を流下する掘込河川です。一部区間が狭窄となっているため、流下能力不足が生じています。上流には新産業ゾーンが位置しており、多くの事業所が存在します。また中・下流には農耕地が広がります。そのため、ひとたび浸水被害が発生すると、社会・経済活動に甚大な影響を与える地域でもあります。

永江川において過去に発生した主な浸水被害は、昭和 47 年 7 月の豪雨、昭和 51 年 9 月の台風 17 号、平成 2 年 9 月の台風 19 号等が挙げられます。特に平成 2 年 9 月の台風 19 号では永江川沿川において総雨量 357.5 mm を記録され、床下 123 戸が浸水しました。

表-1 過去の主要な被害状況（永江川関係）

発生年月日	気象原因	浸水面積 (ha)	被災家屋 (戸)		備考
			床上	床下	
S47. 7	豪雨	不明	不明	不明	
S51. 9	台風17号	不明	不明	不明	
H2. 9. 11	台風19号	136	0	123	
H23. 9. 3	台風12号	4. 2	0	1	(内水被害)

このように、度重なる浸水被害に見舞われてきた永江川では平成 5 年から平成 13 年に県による河川改修が行われました。また、平成 11 年から平成 28 年（認可期間）には、ブルーライン永江橋～新産業ゾーン出口（一級指定最上流端）の 800m 間の河川改修が市によって行なわれましたが、一部改修が完了していない箇所があります。

このように永江川では、浸水被害の解消を図ることを目指して、治水対策を進めています。しかし、十分な治水安全度が確保されておらず、今後も引き続き河川整備を進める必要があります。



図-3 永江川関連の河川改修事業位置図

### 1.2.2 利水の現状と課題

永江川では直接流水を取水する水利権等は設定されていません。これまで流量観測等が実施されておらず流量等の流況は不明です。水環境の維持や流況把握のため、データの蓄積に努める必要があります。

### 1.2.3 河川環境の現状と課題

#### (1) 水質

永江川で水質環境基準は定められていません。令和6年度の水質調査（二軒屋橋上流地点）では、BOD（生物化学的酸素要求量）が2.0mg/Lであり、A類型に相当します。

#### (2) 動植物

永江川における動植物の生息・生育の概況は、魚類では、ヤリタナゴ（環境省 RL：準絶滅危惧、岡山県 RDB：準絶滅危惧）、シロヒレタビラ（環境省 RL：絶滅危惧 I B類、岡山県 RDB：絶滅危惧 I類）、ゼゼラ（環境省 RL：絶滅危惧 II類、岡山県 RDB：準絶滅危惧）、サンヨウコガタスジシマドジョウ（環境省 RL：絶滅危惧 I A類、岡山県 RDB：I類）、ミナミメダカ（環境省 RL：絶滅危惧 II類、岡山県 RDB：準絶滅危惧）が確認されています。

底生動物では、クロダカワニナ（環境省 RL：準絶滅危惧）、ミズゴマツボ（環境省 RL：絶滅危惧 II類、岡山県 RDB：絶滅危惧 I類）、ササノハガイ（環境省 RL：絶滅危惧 II類、岡山県 RDB：準絶滅危惧）、ミゾレヌマエビ（岡山県 RDB：準絶滅危惧）、コガムシ（環境省 RL：情報不足）が確認されています。

河道内植生では、ヒメミズワラビ（岡山県 RDB：準絶滅危惧）、コギシギシ（環境省 RL：絶滅危惧 II類）、カワヂシャ（環境省 RL：準絶滅危惧）、ミゾコウジュ（環境省 RL：準絶滅危惧）が確認されています。

#### (3) 河川空間の利用

永江川は現在目立った河川空間の利用がありませんが、貴重な水辺空間として周辺の自然環境との調和を図りながら、親しみが持てる河川空間の形成に努めます。

#### (4) 歴史・文化

かつて児島と岡山平野の間には吉備穴海と呼ばれる内海が存在し、重要な航路の一つがありました。中世後期の頃、吉備穴海を監視・拠点とする目的として、吉井川との合流付近にあたるところに乙子城が築かれました。武勲を立てた宇喜多直家が乙子城を与えられ、以降勢力を拡大していきます。この地域は備前国の近世社会が始まった場所であります。

また、現在では岡山ブルーラインと岡山牛窓線が交差し、インターチェンジが隣接する交通の利を活かし、新産業ゾーンが形成されています。岡山市の産業の活性化に寄与しています。

## 2. 河川整備計画の目標に関する事項

### 2.1 整備計画の対象区間及び期間

本計画の対象区間は、表-2に示す河川法指定河川の区間を対象とします。

本計画の対象期間は、計画策定期から概ね20年間とします。なお、本計画は現在の知見により設定したものであり、洪水等の被害の発生状況、水利用の変化、河川環境や沿川環境の変化及び社会経済情勢の変化に応じて、適宜見直しを行うものです。

表-2 河川整備計画対象河川一覧

河川名	区間		河川延長 (km)	流域面積 (km <sup>2</sup> )
	上流端	下流端		
ながえがわ 永江川	岡山市東区西大寺川口	岡山市東区西大寺新	1.7	2.66

### 2.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

永江川では、これまでの水害を基に浸水被害を防止・軽減するための河川改修を実施し、治水安全度の向上を図ってきましたが、部分的に未改修区間が存在するため浸水被害が発生する可能性があります。

このため、永江川においては、市管理区間の下流部と同様の整備水準（年超過確率1/20程度）の洪水に対して浸水被害の軽減を図ります。

### 2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

永江川においては、良好な自然・社会環境の維持・保全に配慮しながら、地域住民に永く親しまれるよう、地域住民や関係機関と連携して河川の適正な利用等に努めます。また、必要に応じて流況を把握するとともに、水利用の実態や自然環境等の把握に努めます。

### 2.4 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、治水及び利水との整合性に配慮し、良好な河川環境の保全・再生を図るとともに、動植物の生息・生育環境の保全に努めます。さらに、自然環境や沿川環境に配慮した川の整備、親水性の確保により、快適な水辺空間の整備に努めます。

水質については、下水道事業や関係機関及び流域住民との連携を図りながら、流入汚濁負荷量の削減対策等を進め、水質の向上に努めます。

### 3. 河川の整備の実施に関する事項

#### 3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに 当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

##### 3.1.1 河川工事の施行の場所

永江川において河川整備計画の目標を達成するために、表-3に示す区間で工事を実施します。なお、施行区間の位置図を図-4に示します。

表-3 河川工事施工区間

種 別	河 川 名	施工区間	延 長
河川 改修	永江川	岡山市西大寺新から岡山市西大寺川口	0.5km



図-4 施行区間位置図

### 3.1.2 河川工事の目的、種類及び河川管理施設の機能の概要

河川工事の目的は、整備目標に対して河積が不足している箇所において、川幅の拡幅や河道掘削を行うことにより河川の流下能力を向上させることです。河道改修は改修が完了している区間を踏襲した河道形状を設定します。河川が動植物の生息・生育の場であることを踏まえ、施工時は環境負荷を最低限に抑えるための工区分割、完成時は魚類等の生息環境の保全・創出のために治水上問題のない範囲での捨石の設置や植生の早期生育ための覆土等を行い、より良い環境になるように取り組みます。さらに景観に対しても十分配慮した河川改修を実施します。

整備計画の目標流量配分図を図-5に、また、施行断面イメージ図を図-6に示します。

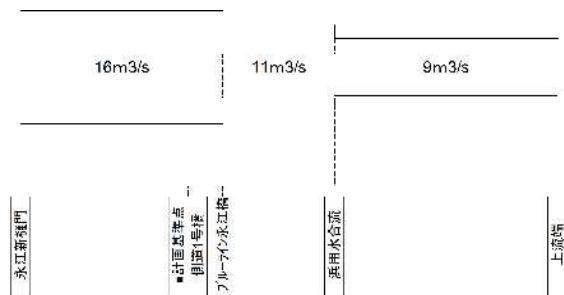


図-5 永江川の整備目標流量配分図

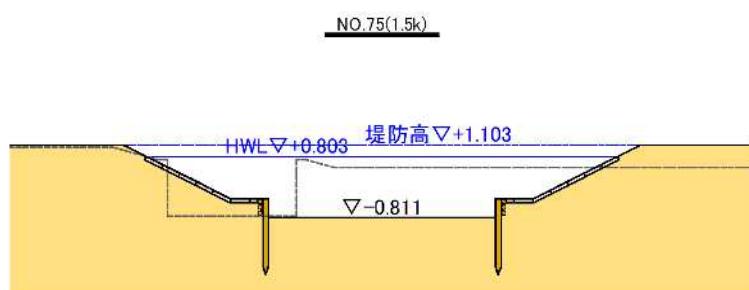


図-6 施行断面イメージ図

### 3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

#### 3.2.1 河川の維持の目的

河川の維持管理については、河川の特性や沿川の土地利用状況を考慮するとともに、河川占用者及び関係機関と調整を図り、洪水等による災害の防止・軽減、河川の適正な利用及び河川環境の整備と保全に努めます。

#### 3.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所

##### (1) 河床の維持

河床上昇等、洪水の流下の阻害となり治水上支障となる場合には、関係機関と連携して、掘削等の必要な対策を講じます。なお、対策を実施する場合は、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境への配慮に努めます。また、洗掘による河床の低下は護岸等構造物の基礎が露出する等災害発生の要因となるため、早期発見に努め適正な対応を行います。

##### (2) 河川管理施設の維持

定期的な河川巡視等により、護岸、堤防の亀裂発生等の異常を早期に発見するとともに、河川管理上支障となる場合は速やかに修繕等の必要な対策を行います。

##### (3) 植生の維持、清掃活動

今後も良好な河川環境の維持・保全に努めるとともに、必要に応じて草刈り等の維持管理活動を、関係機関及び地域住民等と協力して実施します。

また、河川内における特定外来生物の分布状況の把握に努め、分布が確認された場合は、外来生物の駆除を必要に応じて考慮するとともに、関係機関や地域のNPO、市民団体等と連携・協働した取り組みに努めます。

#### 4. 河川情報の提供、地域や関係機関との連携に関する事項

多様化する流域住民のニーズを反映した川づくりを進めるため、インターネットホームページ等を活用して、河川事業の紹介や河川及び流域に関する情報を広く提供するとともに、流域住民や関係機関と連携を強化し、良好な河川環境の整備を推進します。

治水、利水及び景観等の河川環境上の適切な河川管理を図ることに支障が生ずる場合は、関係機関と連携して適切に対応します。また、河川管理上影響を及ぼす開発行為については、他部局と調整し、必要に応じて流出抑制対策の実施を事業者に指導します。

許可工作物の新設や改築にあたっては、許可申請者（施設管理者）に対して治水上の影響だけでなく、必要に応じて自然や景観の保全にも十分配慮するよう指導します。

洪水時には、関係機関と連携のもと、適切な水防活動を行うとともに、流域住民や自主防災組織に対し水防に関する各種啓発活動を行うなど、共助の水防活動が活性化するよう努めます。

また、近年でも岡山市内において浸水被害が発生するなど、より一層の治水対策等が必要なことから、国、県、市町村、企業、住民と連携し「吉井川水系流域治水プロジェクト（令和6年度末時点）」に定めた流域全体で行う治水対策を着実に進めていきます。